



サポちゃん通信

自然が好き

No. 1

生きものが好き



目次

・田中さんに聞いてみた！	3
・おとどい山・鴻ノ峰・糸米川砂防園周辺地図	4
・虫デビュー	5
・オニヤンマ	6
・わくわくどきどき 虫たちの出会い アカハネナガウンカ	7
・オオセイボウって何？	8
・スジグロシロチョウはレモンがお好み	9
・博物館サポーター活動を経験して	10
・糸米川砂防園の砂地や水辺でみられる昆虫	11
・糸米川砂防園の草地の昆虫	12
・兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの昆虫 1	13
・兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの昆虫 2	14
・クズ（葛）	15
・コラム カマキリとハリガネムシ・表紙説明	16

表紙・イラスト

原まゆみ

はじめに

2015年4月から私たち動物サポーターは学芸員さんと共に鴻ノ峰周辺の昆虫観察と標本作製をしています。月2回ほどの活動ですが、年間を通じて様々な昆虫が確認できます。春の訪れと共にチョウやトンボ、アブ、ハチ、甲虫たちが活動を始め夏にはセミの合唱も加わります。秋の初めはカマキリやバッタの仲間が飛び跳ね、やがて迎える冬は成虫越冬の虫や集まって冬越しに備えるサシガメの幼虫たちがいます。2年余りを経過し捕獲数は500種を超えています。これはその活動の中の数種類の虫たちとの出会いの記録です。

この周辺は散策に訪れる人々も多いのですが、虫たちに注意を向ける人は少数です。虫に興味のない人たちにも道沿いの葉上などに目を向けて、小さな生き物たちの様子を知る機会があればと思っています。

田中さんに聞いてみた！

中高年むしむし探検隊リーダーの田中さん(博物館動物担当)にちょっと聞いてみました(聞き手 間田敬子)

間田 博物館サポーターが始まり、月2回土曜日の昆虫採集が続いて2年、手ごたえはいかがですか？

田中 昆虫好き少年が大人になってもう一度という人から、虫なんて見るのも触るのもイヤだったという女性までと、バラエティーに富んだメンバーですが、みんな好奇心をいっぱい刺激されながら楽しく活動してくれているように思います。

間田 先生にとっては、「大人の幼稚園」的な感覚でしょうか？虫嫌いでは活動にならないようにも思いますが…

田中 それが、人間って慣れると平気になるみたいで、虫の美しさとか生態の面白さを知るうちに、今では恐怖の「ギャー」ではなく見つけてうれしい「きゃー(☺>◡<☺)。♡♡」の音が響くようになりました。

そしてね、僕らが探しても捕れないような虫をヒョイっと見つけだすんですよ！「大人の幼稚園」なんてとんでもない！前知識がないからか、思いもよらない視点で自由に探せるってすごい。そこ見る？え、そこにいるの、と驚かされることが多いです。ここにいるはずがないもの、県内での発見例がごく少ないもの等々、なぜ私ではなく(泣)…「すごいですね」と平静を装ってはいますが、私正直悔しいので、現場では記録の写真を撮ったりサポートに回って自分をなだめていたりもします

間田 きちんと記録に残すのも大切なことですもの。2年間の成果を報告書(山口県の自然 76・77号)にまとめておられますが、確かにすごい数・種類の生き物が見つかりましたね。

田中 みんなで定点観察することで、日常の視線では見えないものが見えてくるものですねえ、期待以上の成果が出ましたね。

また、虫捕りだけでなく、種類を同定するために粘り強く調べることが得意だったり、形を整えて標本にする緻密な作業がうまかったり、今までの人生で培ったノウハウも生かしてさすがと感心することも多いです。

1+1ではなくみんなで続けることで何倍にもなっているなど感じています。これからも続けていきたいですね。



おとどい山・鴻ノ峰・系米川砂防園周辺図

虫デビュー

サポーター登録はしたものの、昆虫採集の経験もなく、名前もほとんど知らないし、無謀なスタートでした。いわゆる七つ道具を手に、首には三角ケースを下げ、見た目はそれらしくなりましたが、いざ始めてみると ——

昆虫採集は「虫を捕まえる」だけではありませんでした。九時に現地集合後、ひたすら虫を探し捕虫網や吸虫管などをつかって捕まえ、三角紙に包んだり、毒ビンやビニール袋等に入れて博物館へ場所移動。

午後は同定・標本作りの作業です。同定は図鑑や関連本を見たり、顕微鏡を覗いたりして違いを詳しく調べますがどうしてもわからない時もあります。

標本作りは、足や触覚を格好良く整えて台に止めます。チョウやトンボは翅をきれいに広げて展翅板に止めるのですが、これが至難の業でなかなか上手に出来ません。

こうして一日目は、あっという間に終わりました。

(山田恵美子)



オニヤンマ



オニヤンマ 複眼が1点で接し、他のヤンマと区別できる 全長 82-114 mm

砂防公園の川沿いの小道、私の頭上50センチ位をオニヤンマがスーッと飛んでいきます。しばらく待っているとまた同じコースを飛んできました。待ち構えて網を正面に向ってサッと一振り。自分の思うほどには素早く網を振れません。何事もなかった様に飛んでいきました。今度は後ろから。私が網を動かした瞬間急に速さを増し高度を上げ飛んで行ってしまいました。もうどんなに網を長くしても届くものではありません。

終了間近になり駐車場へと向かう途中、道路脇の低い小枝に何かぶら下がっています。よく見るとなんとオニヤンマではありませんか。半信半疑で下からそっとすくうように網の中に入れると、激しく翅を動かして逃げようとします。何だか急に可哀想な気がしてきて放してやりたくなくなりました。

「先生オニヤンマいます？」駐車場にいる先生に声を掛けると「います」と即答。ごめんね・・・とつぶやきながら、網の上からオニヤンマの胸部をおさえました。昆虫採集は捕まえるとうれしい反面ちょっと心が痛むこともあります。(藤田かおる)

どきどきわくわく 虫たちとの出会い アカハネナガウンカ

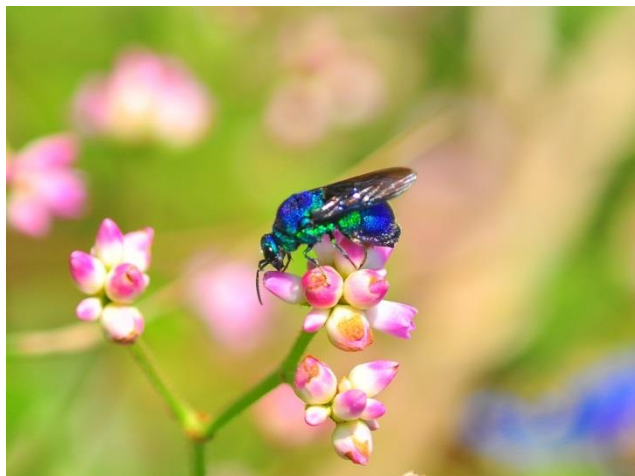


前翅がながいアカハネナガウンカ 全長 9-10 mm

昆虫図鑑を見ていると、今まで見たことのないたくさんの虫たちに出会えます。そのなかで、私にとって最も出会いたい虫はアカハネナガウンカでした。

その日の昆虫採集も、虫がいそうな所にしゃがんでじっとして、虫が動いたり飛んで来たりするのを待っていました。すると、目の前の草の間から赤くて丸く見える小さな虫が2匹、ホワリホワリと飛んでいました。となりのトトロに出てくるまっくろくろすけが羽をつけて飛んでいる感じです。おもしろいなあと見とれていました。数が少ない虫ならと思い1匹だけ捕りました。よく見ると、なんと図鑑で見たあのアカハネナガウンカではありませんか。図鑑で出会い本物に出会えた喜びは何とも言えませんでした。さらに、ルーペや実体顕微鏡で拡大して見るときのどきどきわくわくする新しい発見が、私は楽しくてたまりません。さあ、これからどんな虫たちと出会えるのでしょうか。(上田貴子)

オオセイボウって何？



全身金属光沢のオオセイボウ 体長 12-20 mm(撮影:管哲郎氏)

まだ夏の暑さが残る9月上旬、鴻ノ峰エリアに観察・採集に行った時のことです。その日は木戸神社周辺の花の多い場所を中心に虫たちを探していました。蝶を何種類か採集した後、ツツジの周りを飛び回る虫を見つけました。遠目で見るとハチかアブのようでしたが、近づくとその虫は青い色をしています。慎重に捕虫網を差し出して捕まえてみるとブルーメタリックに輝きまるで宝石のようなハチでした。これまでハチといえば黄色と黒色の縞模様のイメージでしたが、それを一変するような美しいものでした。

学芸員さんに見せると「オオセイボウじゃないですか。すごいですね。」と言われました。「オオセイボウ?」、「ハチじゃないの?」、「ハチとは違う種類の昆虫?」戸惑ってしまいました。図鑑で調べてみると「オオセイボウ、漢字で書くと大青蜂」とありました。なるほど大きな青い蜂かと納得しました。タマムシのような綺麗な甲虫類は知っていましたが、ハチにもこのような光り輝くものがあったとは驚いてしまいました。オオセイボウに巡り合えて心に残る一日になりました。(村上敬司)

スジグロシロチョウはレモンが好み



スジグロシロチョウ 林縁をゆっくり飛ぶ

市街地より少し標高が高い鴻ノ峰周辺で見かけるシロチョウは、スジグロシロチョウが多いようです。開張 50～60 mmほどで翅脈が黒色となる部分があり識別できます。3～10 月頃まで見かけ、春の求愛の時期にオスは「香鱗」の鱗粉からフェロモンを放ちます。この香りはレモンガラスに似ています。捕獲して鱗粉の匂いを嗅ぐことでも春型オスを識別できます。チョウやガの仲間はオス・メス、春・秋では模様が異なることもあり、識別が難しくなります。卵から成虫と完全変態をしたスジグロシロチョウは更に春型、夏型と姿を変えて飛び回っています。

姿を観察し大きさ、翅の色や形、生態など知っていれば、同定のヒントになります。その作業は生物の多様性を知る時間でもあります。チョウ 1 頭からも様々なことが分かります。チョウの数え方が 1 頭、2 頭であることもサポーターになって知ったことです。2015 年 7 月 18 日オス 1 頭捕獲（岡田美子）

糸米川砂防園の砂地や水辺近くで見られる昆虫



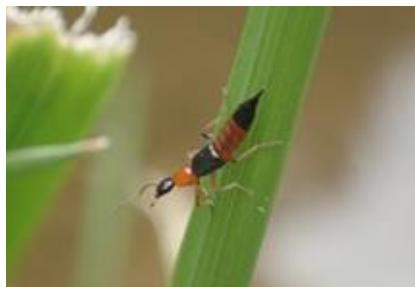
イシガケチョウ 開張 45-55 mm
ウラギシジミ 開張 35-40 mm
吸水にくる



アオスジアゲハ 開張 55-65 mm
飛ぶのがとても速いがよく水場にくる



ミヤマカラスアゲハ 開張 80-130 mm
美しく、後翅の裏に白い帯がある



アオバアリガタハネカクシ 体長 6.5-7 mm
水辺周辺の草の根元や葉上にいる。体液にはペデリンという毒素があるので注意



ネキトンボ 全長 38-48 mm
翅の付け根が幅広く橙赤色が特徴



スズバチ 全長 18-30 mm
石の表面などに泥で固めて巣を作り、巢材の土の採取にくる

糸米川砂防園の草地の昆虫



ツマグロヒヨウモン 開張 60-70 mm
メスは、はねの先が黒い。広場の草原に多い



ツマグロヒヨウモンの幼虫はスミレ類をたべる



オオカマキリ 全長 68-95 mm
他の昆虫を捕えて食べる。後翅に紫褐色の幅広い斑がある



ハネナガイナゴ 全長 30 mm
公園内の草地で多く見ることができる



エンマコオロギ 全長 29-35 mm
草地の間を活発に動く大きなコオロギ



キンケハラナガツチバチ 体長 16-27 mm
腹が長く花の蜜をすいにくる

兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの昆虫 1



ダイミョウセセリ 開張 30-40 mm
速く飛ぶが、葉の上などにとまり観察しやすい。幼虫はヤマノイモなどの葉を食べる



ヘリカメムシ 体長 10-12 mm
前胸の背がとがっているのが特徴。クズの茎などにとまり植物の栄養を吸いとる



シオヤアブ 体長 22-30 mm
林道沿いを昆虫類を捕えて体液を吸う



キイロスズメバチ 体長 17-24 mm
全身が黄色。岩や木の上などに大きな巣をつくる



ヤマトシリアゲ 夏型 前翅長 13-20 mm
葉の上において、飛んで近くにとまる



イノコヅチカメノコハムシ 体長約 5 mm
イノコヅチの葉裏において、葉を食べる

兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの昆虫 2



ヒナカマキリ 体長 12-18 mm
一番小さなカマキリ 葉の上でじっとしている



ナナフシモドキ 体長 70-100 mm
林縁の樹や草の葉の上においてゆっくり動く



ヤマトフキバッタ 全長 25-30 mm
翅は短い葉や草の上でよくみる



セスジツユムシ 体長 33-47 mm
葉の上などに止まりじっとしている



サトクダマキモドキ 体長 45-62 mm
大きなバッタの仲間 ゆっくり動く



マメコガネ 体長 9-13 mm
イタドリやクズの葉を食べる

クズ（葛）



クズは秋の七草のひとつであり、日本全国に分布するマメ科のつる性多年草です。古来より、食糧・飼料・薬用・観賞用などに利用されており、糸米川砂防園周辺でごく普通に見ることができます。

春に伸びてきたクズの新芽はてんぷらにするととっても美味しくお勧めの一品です。ということは、昆虫にとっても美味しい餌ということになり、多くの昆虫がクズに集まってきます。「昆虫を見つけるには植物を探せ」とよく言われますが、クズにはどんな昆虫が集まってくるのでしょうか、一緒に探してみませんか。（上田洋史）



ハラビロカマキリ 全長45-68mm水
辺で腹からハリガネムシを出す



流れがゆるやかな所をよく見ると
おびただしい数のハリガネムシ

ハリガネムシはカマキリなどの肉食性の昆虫体内で成長し、秋、水辺にカマキリを誘導し、腹から出てきます。カマキリの生殖能力は無くなります。水の中でハリガネムシは交尾し、水中に卵を産みます。

主な参考文献

日本の昆虫1400①・② (2013) 梶真史他 伊丹市昆虫館監修 (文一総合出版)

表紙説明

表紙・イラストを描きました♪ この活動に参加するまで、あまり彼ら（虫たち）のことをジックリ見た事はありませんでした。今回、観察してみてビックリ！素敵な姿をしています♡ オオセイボウのお尻は宇宙です！トンボの目は宝石！チョウの翅は風のスカーフの様。みなさんもアカハネナガウンカの写真を探してにらめっこしてみてください。勝てる自信があるならね～！（原まゆみ）

山口博物館サポーター動物班活動報告 “サポちゃん通信” No. 1

発行 2017年8月3日

編集 山口県立山口博物館サポーター動物班

発行 山口県立山口博物館 〒753-0073 山口市春日町8-2

Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353